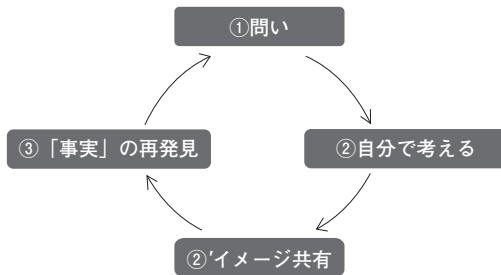


## 【本書の構成と使い方】

本書は、第Ⅰ部の9つの章と、第Ⅱ部の6つの章の全15章で構成されています。各章では、私たちの日々の生活と関連するテーマを設定しています。第Ⅰ部「ライフコースから社会学をする」では、誕生から死までの人間の一生に沿って、就職、結婚、介護といったテーマを取り上げます。第Ⅱ部「日常の行動から社会学をする」では、衣食住やそのほか私たちが普段行っていることに注目します。

日常の何気ない生活場面に社会学の考え方を持ち込んでみると、どんな見方ができるのか、どんな風に見え方が変わってくるのかを、一緒に考えていきます。そのための、ちょっとしたコツを、下図のように示してみました。



まず、「①問い」です。普段、自分が何気なく見過ごしていることや、当たり前だと思って疑いもしなかったことについて、疑問を持ってみます。ただ、この「問い」を持つということが、じつは一番難しいことかもしれません。そこで各章では、さまざまな問いかけを用意し、考えるきっかけをつくるようにしています。

各章に用意された問いは、唯一の正解があるものではありません。ですので、間違った答えというものもありません。連想ゲームのように気楽に、自分の想像力を発揮し、考えてみてください。この自分で「②考える」というプロセスが、社会学をすることを、とても面白く、エキサイティングなものにしてくれるポイントになります。そして、もしこのテキストを講義で使っているなら、その考えたことを他の人と「②'共有する」と、自分の「常識」とは異なったアイデアや発想に出会えるかもしれません。また、想像以上に、自分と他の人たちの考えが似ていることに気がつくかもしれません。自分ひとりで考えるよりも、学びの幅は広がっていくでしょう。これらが皆さんの「常識」を見える化する作業になります。

そして自分の「常識=思い込み」を、さまざまなデータや歴史背景を踏まえて検討し、「③事実の再認識」をしていきます。たとえば年々増えていると思っていた少年犯罪は、

じつは長期的にみれば減少傾向にあるとか、女性の社会進出がかなり進んだと思っていたけれど、じつは世界的にみると日本の男女平等はかなり遅れているなど。そしてそのような事実の再発見が、「なぜ自分はそんな風に思い込んでいたのか?」「ではほかのデータを踏まえたらどう見えるのか」など、新たな「問い」へとつながっていきます。

本書では、こうした「問い⇒考え・共有⇒発見⇒問い・・・」という流れを意識して、読者である皆さんと一緒に社会学をしていく方法として、各章に Step を設けました。

### Step 1：素朴な疑問

〈問いかけ〉日常の中で「当たり前」過ぎて疑問にも思わなかったようなことについて問いかけ、章のテーマへ誘います。

#### 関連章

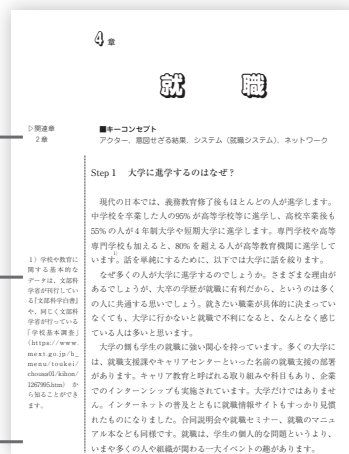
章のテーマと、関連が深い章を示しています。相互参照しながら読めば、さらに理解が深まります。

#### 注

参考文献やデータの参照先、自分でさらに学びたい人のための、追加的な情報が書かれています。

#### メモ欄

空白部分は、メモ欄として、気になることや、考えたことを自由にメモして下さい。

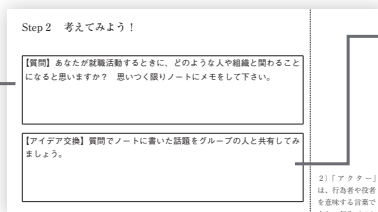


### Step 2：イメージと、その共有

〈自分の当たり前を知る〉章のテーマに関連する質問に対して、自分が想像したことや、他の人が考えたことを、共有していきます。

#### イメージする

素朴な問いかけに対して、自分がイメージすることを、メモします。自分の「当たり前」を見える化する作業です。

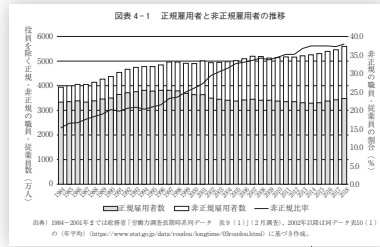


#### 共有する

自分のイメージを、他の人と共有します。自分の「当たり前」が、他の人とどれくらい同じだったり、異なっているかを確認します。

### Step 3：事実の再発見

〈現状についての気づき〉 Step 2で「見える化」した、自分たちの「当たり前」を、さまざまな事例やデータと関連させていきます。個人的な体験と思われていたものが、社会制度や歴史的背景の中でつくられてきたものであるという「気づき」につなげていきます。



図表・データ  
内容理解を助ける図表  
やデータを掲載。参考  
URL\*も多数紹介して  
います。

### Step 4：常識への社会的問い

〈考察を深める〉 Step 3で見た個人的体験の社会的側面について、オーソドックスな社会学の考え方をを使って、さらに深めていきます。自分の「当たり前」が、どんな社会的・歴史的的条件の中で、つくられているかを考えていきます。

### Step 5：社会学的思考の可能性

〈視点を変える〉 Step 4で見た、私たちが規定する社会という枠組み（常識）自体を、社会学的思考を使って、どのように組み立て直せる（変更できる）かを探っていきます。自分を縛っていた「当たり前」から距離をとり、見えていなかった可能性を見つけられるように、社会学を使ってみます。

### Step 6：社会学的思考の実践

〈自分で社会学をする〉 各章のテーマに関連して、自分で社会学っぽく考えたり、調べたりするためのトピックを用意しています。この章で学んだことを、自分ならどんな風に考えるか、アイデアを広げてみてください。

以上の6つのStepで、「社会学をする」というのがどんな感じなのか、疑似体験をしてもらいます。そして社会学をすることの面白さや可能性を「もっと知りたい」、と思えたら、本書に掲載されている参考文献やデータを手掛かりに、「自分で」社会学をしてみてください。もし本書が、あなたと「社会学」とが出逢うきっかけになるなら、それはなにより嬉しいです。

\*本書に掲載している URL は、2020年4月17日時点のものです。URLによっては変更または削除されている可能性があります。